第百十八師団輜重隊略歴

陸軍技術軍曹　原田敏治

年月日	摘要
昭三、一、三一	編成、月日
一、三一	傭員帰隊の為編成完結
二、一	天津貨物廠に集結
二、九	114十八大隊長原小佐の指揮に入る
	天津貨物廠出発
	塘沽港出発
二、一四	佐世保港上陸
	復員完結
	我々整理者官氏名　陸軍技術軍曹　原田敏治
	荷送間の事故なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊の編成

部隊は第百十八師団輜重隊より先発混成せる一中隊にして中隊長西内大尉

以下百十九名 昭三、一、二六 北大那野戦貨物廠（天津）に集結し輸送

大隊（附七八大隊）第六中隊に編入さる（指揮班及三ヶ少隊編成）

輸送指揮官

戦車第三師団整備隊長

陸軍中佐　山根実一　指揮下に入る

出港地及上陸地並に年月日

出港地　塘沽　昭三、一、二九

上陸地　佐世保　二、三

輸送船名　LST 一〇一二　二、九

上陸地出発日

我が整理者官氏名　陸軍獣医学軍曹　日比野末松

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団輜重隊 略ノ

年日日	概要
昭五、一、二二	第百十八師団輜重隊に三百名編成
一、二五	野戦貨物廠二一五名先発者として集結
	梅崎隊の指揮下に属す残留の部隊米軍特殊動いに服し有り
昭三、一、二三	今西少尉以下一二九名宿舎出発
一、二八	佐世保上陸
	残務整理
	今西少尉上陸と共に帰国せるに付 陸軍々曹 前田昇 残務整理に任ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団輜重隊略歴　（恵第一五六四三、部隊）

指揮者　陸軍少尉　稲垣義夫

年月日	概要
	将校一、下士官九、兵一四九、計一五九名
六、一四	一四〇〇屯営（天津法幾営）出発華北野戦貨物廠に集結す
	1939 大隊長　陸軍大尉　技法の指揮に入る
三、二〇	〇六〇〇検査場に列る検査場に於て稲垣少尉戦犯容疑者として中国側より崑山駐屯当時の任務其の他入学渡支等の年月日を約十九分に亘って、異常なく通過
	一二、三〇　塘沽乗船地到着
	一七〇〇乗船開始　一八〇〇出港す
	船種L.S.T　Q〇三七号
三、二四	二〇〇〇佐世保に入港、民船に一泊す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、二五　一一二ヶ佐世保浦頭港に上陸一五三〇全員異常なく針尾収容所に入る。

三、二六　復員式を行う、朝鮮出身一般兵卒五斗氷は朝鮮帰国者収容所に入る。

陸軍々曹　田刈保雄　今次復員者残ム整理の為二日市復員本部に出頭す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団輜重隊署厂

年月日	概要
	部隊長名 第一代　陸軍大尉　若松　喬 第二代　〃　少尉　〃　所付兼武 第三代　〃　〃　寅井徳郎
昭九、八、一	編成の状況 軍令陸甲第七九号に依り蒙疆大同に於て編成業務を開始す。 同日第一代輜重隊長として第六三師団輜重隊より到着せり。 陸軍大尉若松喬は部隊編成要員として左記人員及此等人員の携行する兵器弾薬を逐次掌握し八月十五日編成装備団結を完結す。 左記 前所属　転入月日　兵力 輜重兵第二六連隊　昭九、八、一　将校以下一三〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野砲兵第十一連隊　昭五、八、一　佐官以下一〇〇
名古屋師団補充隊　〃　〃　下士官以下六〇
独立歩兵第九旅団　〃　八、一五　佐官以下三二〇

編成完結時に於ける部隊職員左の如し

左記

輜重隊長	陸軍大尉	若狭　爾
輜重隊副官	〃　中尉	村井　章三郎
本部付	〃	井上　喜多男
同	〃　少尉	村田　安義
同	〃　技術少尉	小島　注作
同	〃　軍医中尉	山田　正徳
同	〃　経理部見習士官	稲田　正夫
同	〃　獣医中尉	信保　正延
同	〃　〃　少尉	中島　信
同	〃　主計中尉	古田　友男
第一中隊長代理	〃　少尉	上西園　操

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二中隊長	陸軍中尉	吉田四十夫
小隊長	〃少尉	春日鉄男
同	〃	後藤哲男
同	〃	寺島作太郎
同	〃	向井勇
同	陸軍兵科見士	浅野貞夫

編成完結時に於ける兵力左の如し

左記

人員	六一〇	（入院一二名其他含む）
馬匹	四馬	一二頭
	大隊馬	五三八頭
輜重車輌	五〇〇輌	
自動貨車	三〇輌	

行動の概要

部隊は編成完結と同時に教育訓練に従事する傍ら一部を以て在滿原独立歩兵第三九二大隊に対する常続補給を実施す。更に九月末在留歩兵第八九

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

被田に対し小隊長（人六〇　馬匹四〇　車輌三九）を配属し同夜同駅下
指揮下部隊の包頭附近に於ける鉄道警備に任ぜしむ、当時に於ける部隊
兵力配置左の如し、

左　記

大同　軽重隊本部、　第一中隊（一小隊欠）　第二中隊
包頭　第一中隊の一小隊

越へて昭和一四、二、六　独　四、二、六独部隊は依然前任務を遂行す、
包頭配属部隊を原所属に復帰せしめ右号作戦準備の為大同出発、鉄道警備
に依り中支に向い輸送す、
江蘇省崑山県崑山に下車直に左の如く兵力を配置す、

左　記

崑　山　本部第一中隊（一分隊欠）　第一中隊（三小隊欠）
太　倉　第二中隊の一小隊
劉河鎮　第二中隊の一小隊
西茫塘　〃　第一中隊の一分隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

左の兵力基礎配置を完了するや主力を以て陸路を一部を以て水路を利用し
太急水衆師団隷下諸隊下各部に対する集積資材及び其の他の軍需品の輸送
に任ず
情勢の変化に伴い再び新任務を以て蘭領に向い転進を命ぜらるる十三日崑山
を出発す
途中十六日除州沿岸の演終戦に関する情報を入手す
部隊主力は北支天津に下車兵力の集結を図りて一二日全力の集結を完了す
同地に於て連合軍に対する武器及軍需品の接受を完了し爾后本隊復員準備
に着手すると共に米軍特殊勤務に服す
明けて二一年一部兵力を逐次復員せしめつゝ同様の勤務業務を遂行し三月
二三日　部隊主力を以て帰国の為塘沽出発
二七日佐世保上陸
同時主力人員（二四六名）除隊召集解除を行い復員を終了す
主力に先んじ復員せしめたる兵力左の如し

一、元

一一、二六

八、一一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

左記

第一次　一四一名　昭三、一二、八
第二次　一一九〃　〃、三
第三次　六七〃　三、一四
第四次　二一〃　〃　三、
第五次　一九九〃　〃　三、二九

主力復員人員　二四六名

計　内地復員人員　七四九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団野戦病院異厂

年月日	概要
	部隊長官氏名 第一代　陸軍々医少佐　大多和　守雄 第二代　〃　榊原　美喜男
昭五、八、一五	編成完結の状況 軍令陸甲第七九号に依り蒙疆大同に於て第百十八師団編成さる。同編成に当りて野戦病院は旧独立歩兵第九旅団患者収容隊を基幹とし之に北京第一、北京第二、南苑、青島北戴河各陸軍病院及北京兵事部其の他部隊よりの差出要員を以て編成完結す。 第一代野戦病院長は陸軍々医少佐大多和守雄（第十二軍医部より転任）なり。 佐校以下三二六名馬匹、四十八頭にして其の内訳左の如し。 佐校　十九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍医十二、歯科二、薬剤二、仏生二、主計一、

下士官

仏生三四、療工四、歩兵九、輜重一、主計三、獣医一、

兵　二五五名

仏生百一六　歩兵九一、　輜重四八

仏生材料

野戰病院医療に組同歯科医班一組、隊医班三具患者用自動貨車七輛

濾水器（乙）二具

開設用天幕八具手術用天幕一具其他

兵器

小銃五〇、軽機一、自動貨車五輛　輜重車四三輛

行動の概要

人野戰病院は大同に位置し昭一九、八、一五～昭二〇年四月、二五日　教育訓

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

線に従事す。

2、第一仮病院長の駐蒙軍々医に転出に伴い第二仮病院長として第百十八師軍医部より陸軍々医少佐神原美喜男昭二、三、二三　附を以て着任す。

3、老兵作戦準備の為第百十八師団の中支転進に伴い野戦病院は昭二、四、末大同を出発し鉄道輸送を以て五月一日　中支江蘇省崑山駅に下車同月九日同省太倉に到着し爾後同地に位置し主力を以て築城作業並に教育訓練を一部を以て野戦病院業務（患者の收療後送）を実施す。

4、同年八月新状勢対処の為第百十八師団の北支転進に伴い野戦病院は八月十三日太倉出発翌十四日崑山駅より鉄道輸送を以て北進す。

5、八月十五日浦口駅頭に於いて八月十四日の停戦に関する詔書の発布を聞く。

6、爾后北進を続け同日十八日天津駅到着下車し天津市内に位置し部隊復員の為諸準備並に奥地より一天津集結邦人患者に対する診療に従事す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

7、九月一日軍令陸甲第百十六号に依り一部兵員（百三名）を天津に於て現地除隊（召集解除）せしむ

8、十月九日武装解除

9、十二月より天津集結部隊の内地還送開始さるるや野戦病院は全兵員を二二ク班に分ち救護班を編成し邦人輸送間の救護業務を実施しつゝ各班単位に逐次内地帰還復員し昭二、三、二七日野戦病院本部の在舎保上陸を以て部隊復員式挙行す

内地帰還時本隊と分離し一部々隊復員した略了は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団病馬廠略歴

年月日	概要
昭五、八、五	編成場所及年月日 隷屬大同に於て編成
	行動
昭五、八、五	大同周辺の警備及病馬收療
三、四、二六	大同出発　中支崑山に前進
五、一	崑山着、　同月九日大倉に前進同日大倉着　同地の警備
八、一三	崑山発
八、二〇	張家口着
八、二一	張家口撤收
八、三一	天津着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、八
二、三三
塘沽出帆
佐世保
復員
昭二〇年一一月二三日

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団司令部略歴

年月日	概要
昭和四、一二	一軍令陸甲第六十五号に依り第百六十一師団臨時編成下令
四、三〇	中華民国江蘇省上海に在りて編成完結
	陸軍中将高橋坦寿慶被補第百六十一師団長
三、四、三〇	上海西南地区及上海東地区の警備並に警備
〃 八、一五	
八、一六	駐屯の為上海出発
〃 八、一七	南京着
八、一七	南京市内の警備並に掃蕩に従事
九、二四	
九、一四	江蘇省江寧県湖熟鎮に駐屯兵中隊生活に入る
三、三、一四	内地帰還の為江蘇省江寧県湖熟鎮出発
三、一五	上海着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

尓後司令部は左記のかく内地へ帰還せり

左記

帰還状況

I次　内山大尉以下二名　二十年二月二五日　鹿児島
（師団司令部先発として先行す）

II次　大多少佐以下二四名　二十一年二月二六日　鹿児島
（主として残務整理要員）

III次　谷城大尉以下七七名　二一、三、一三　博多
（中口側留用（道路作業）中主力出発せし後司令部に転属す）

IV次　遠藤少佐以下三二九名　二一、三、二二　博多
（司令部主力）

V次　藤田少佐以下四四名
堀原少佐以下三九名　二一、六、一二　仙崎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（藤田少佐以下は兵站勤務隊として残留中の処、
標原少佐以下は師団長と共に残留し復員業務に従事中
の処夫々帰還す）

四次　栗林少尉以下一名　二、六、二〇、　陣司

（復員業務に従事中の処第六軍司令部と共に帰還す）

四次　武方大尉以下四名　二、九、六　佐古保

（師団長及参謀長附添として残留中の処帰還す）

以上現在に至る、尚は次に亘り帰還せり

四次　（復員松野業孝以下二名　二、二、一三　鹿児島）

昭二、　月　日　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一六一師団司令部略歴

陸軍中佐　熊谷愛治郎

年月日	概要
昭一八、七、一	才一六一師団司令部の一部（軍隊区分名　南京兵站司令部）軍隊区分によるもの　編成完結
三、七、一	編成人員転属
九、一〇	才一独立警備隊
	才一六一師団司令部
	部隊編成前後の行動概要
一八、六、八	才一師団才一兵站司令部（当時武昌に在り）より熊谷中佐を長とする一支部は武昌出発、同年
六、二	南京に到着時を以て才十三軍司令官の指揮下に入り同官の直轄となり南京兵站司令部と呼称せられ同年七月一日より南京主地に於ける兵站業務に従事せり・其の際の勤務人員は才一三軍隷下指揮下部隊より配属せられ爾来勤務員の交代後動頻繁なりしも人事関係は配属勤務員の本属部隊に於て一切確実に処理せられたり・其の後
二〇、七、一	当時の編成人員は全員才一独立警備隊司令部に転属せられ依然前任務を継行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	せり
	停戦後
昭二〇、九、一〇	更に第一六一師団司令部に全員転属となり
九、一八	兵站業務を撤収して南京郊外龍潭地区に移駐せるも
三、一、三	帰還のため同地出発上海に向い
三、一、九	上海出帆
三、一、三	佐世保港に上陸復員を完了せり
	此の間各部隊の既展人員の交代勤務中に於ける入院、死亡者等若干ありしも
	夫々原本属部隊にて確実に処理済にして転属以後は死亡者及所在不明者等全
	くなく且亦内地帰還に当りては一名の入院者、残留者もなし
	残務整理者の官等級氏名
	本籍地　東京都杉並区天沼一丁目一二七番地
	帰郷先　長野県西筑摩郡本曽福島上町五〇六四番地　塚本長作方
	陸軍中佐　熊谷　貿治郎
	本籍地　大分県東国東郡南安岐村大字下山口七四〇番
	陸軍曹長　小玉　正登
	帰還先　本籍地に合じ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

主力

一六一聯隊長　高橋茂寿度中將以下主力　上海にて待機中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一六二師団司令部の一部略歴

陸軍少佐　柳原連雄

年月日	概要
昭三・五・三〇	行動の概要
六・一二	内地帰還のため上海出帆
	仙崎上陸
	復員式挙行

(五〇)

2390

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一六一師団司令部才三大隊

陸軍大尉　谷城利雄　以下三名

年月日	概要
	編成完結の状況 師団司令部内兼下各部隊よりの転属者漸次増加し従来の司令部の組織のみにては統制困難となりたるを以て茲に部門命令を以て新に司令部を三大隊に区分し才一大隊を司令部本来の人員を以て才二及才三大隊は転属者を以て編成せらる
二三	之が編成を完結
	行動の概況
二三	編成完結後師団主力と共に上海江湾鎮駐屯才一二連隊兵舎に於て乗船待機中
七	乗船内命あり
〃	上海特別市政府に於て乗船検査実施後同所に於て
九	宿泊
一〇	夕刻米船LST@三九号に乗船一泊同
一一	八時上海出帆
一二	一〇時博多港到着上陸後員定結す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	
概要	渉務整理者 陸軍大尉　谷城利雄

(W2)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一六一師団司令部才三大隊略歴

陸軍大尉　野瀬善一

年月日	概要
	部隊編成完結の状況
	大隊は元南京作業隊才二大隊にして各部隊よりの集成とす任務終了後
昭三、二、一三	才一六一師団司令部に転属
二、二三	上海電信才一二連隊兵舎内に於て本属司令部要員を以て才一大隊を作業隊才一大隊を以て才二大隊を作業隊才二大隊を以て才三大隊を編成完結爾後の復員準備の完璧を期す
	行動の概要
	編成完結後一貫せる命令に依り復員待期間の諸準備を着々実施中
三、三	午復員内報を受け
〃六	午後前進命令を受領
〃七	一四、〇〇私物品検査を受け異状なく当日旧市政府内に宿泊
八	一二、〇〇乗船命令を受領直に出発乗船す。輸送指揮官は輜重隊長勝間田少佐船はLST四二号 人員一四〇名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
三、九	〇八、〇〇上海港出発途中悪天候なるも悪海等事故なく
三、一三	一二、〇〇頃博多港に到着
	一四、〇〇頃上陸直に諸給与を実施復員式終了後当日
	二四、〇〇頃高屋中尉以下四〇二名乗車博多港駅を出発各々帰郷せり
	全途中異状なし
	残務整理者
	陸軍大尉　畔瀬善一

(60%)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一六一師団司令部第四大隊略歴

陸軍少佐　藤田茂利太

年月日	概要
	行動の概要及其の日時
	一、乗船月日
	五月二四日　一四〇〇
五、二八	仙崎港
	隔離の状況
	同船部隊に天然痘発生の為二週間隔離せらる。
六、一二	上陸、解隊
	其の他
	患者二名の外全員元気旺盛復員せしむ。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第一〇一旅団司令部略歴

陸軍大佐　江口四郎

年月日	概要
	固有名　歩兵第一〇一旅団司令部
	通称号　殷光第二、三一四〇部隊
昭二〇、四、二〇	中華民国上海　編成地
	編成の概要
〃　四、一三	軍令陸甲第六十五号に依り第一六一師団臨時編成下令
〃　四、二〇	中華民国上海東亜同文書院に於て編成完結
	旅団長　陸軍大佐　江口四郎
	旅団師令部（含通信班）将校以下一六三名
	渡支年月日及渡支当初駐屯地
二〇、	上海
	行動概要
二〇、五、一	より第一六一師団南地区隊となり上海郊外真如―龍華鎮間に該下部隊を派
	し防衛警備に任ず。
八、一四	第六一師団に任務を引継ぎ南京に移動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭一〇、八、一四　南京の防衛に任ず。
九、二五　中華民国江蘇省江寧県樓霞街集中地区に移動
八、一八　陸甲才一六一号に依り復員下令
二、二五　乗船のため上海集結
四、二　上海出帆
四、五　博多港に上陸
四、九　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第一〇一旅団司令部略歴

陸軍大佐　江口四郎

年月日	概要
昭三〇・四・一二	軍令陸甲第六五号に依り第一六一師団臨時編成下令
四・三〇	中華民国上海東亜文書院に於て編成完結
	旅団長　陸軍大佐　江口四郎
	旅団司令部　将校以下　五八名
	旅団通信班　〃　一〇五名
	隷下部隊
	独立歩兵第五二八大隊長　宮崎幸男
	独立歩兵第四七五大隊長　戸川春治
	独立歩兵第四七六大隊長　植田太郎
	独立歩兵第四七七大隊長　吉村光男
三〇・五・一	より第一六一師団南地区隊となり上海郊外真如―龍華鎮間に隷下部隊を配し防衛警備に任ず
三〇・八・四	第六一師団に任務を引継ぎ南京に転進

2398

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭八・一六
至〃九・二五

九、二五　南京の防疫に任ず。
　　中華民国江蘇省江寧県棲霞街兼中地区に移転
八、一八　陸甲第一一六号に依り復員下令
三、二、一五　乗船の為上海乗船
三、二四　上海出帆
三、二三　博多港に上陸
〃　復員式挙行
四、二　上海に於ける残務終了旅団長江口四郎以下一一名上海出帆
四、五　博多港上陸復員式挙行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一六一師団独立歩兵才五二八大隊略歴

陸軍大尉　宮崎幸男

年月日	概要
	編制完結の状況
昭三、四、三	軍令陸甲才六五号に依り臨時編成下令、蘇溫独立歩兵才一大隊を以て編成せらる
四、三	中支江蘇省呉淞に於て編成完結す
	〈本部　一般中隊四、機関銃中隊一、歩兵砲中隊一、通信中隊一〉
	行動の概要及其日時
	渡支年月日
昭三、二、八	渡支当初駐屯地上海
昭三、四、三	上海附近の警備及築城
昭三、八、二	終戦詔書発布
昭三、八、二	上海出発
八、八	南京着
昭三、八、八	南京城外樟殿街に於て集中営に待機
一、三	南京発

(R10)

2400

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、二二　上海着

二、二二　帰還の為上海港出帆

二、二五　鹿児島上陸　復員式挙行後主力の除隊召集解除

特禮事項

自昭三、二、二七　至〃

残務整理の為大隊長宮崎幸男及書記軍曹大城鈑德二日市復員本部に於て服務す

編制兵備改編　なし

兵力及編制主要装備省略

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一六一師団独立歩兵才四七五大隊略歴

陸軍少佐　戸川春治

年月日	概要
昭三、一、六	丸亀中部才八二部隊に於て動員下令
〃 一〇	編成完結と共に独立歩兵才一大隊の假称の許に大隊長陸軍少佐戸川春治之を指揮し中支才一三軍隷下部隊要員として
一、七	丸亀出発、朝鮮及津浦線経由
一、二八	上海到着江湾西兵舎に入る
	上海到着と同時独立混成才六二旅団増加要員に充当せられ福建省福州附近に派遣せらるるの内命に接し着々之が乗船準備中更に才二十三軍隷下部隊要員に変更せらる
	しかるに全般の戦の戦局は逐日悪化し、部隊の南方方面派遣の為船舶輸送は愈々困難を極め大隊は依然上海に待機しあり、此の間才一三軍は仏印方面の情況に促応し上海仏蘭西租界の接収を企図し大隊は一時上海防衛司令官の指揮下に入り
三、一〇	仏蘭西租界に進駐
〃	仏軍武装解除に無血成功す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、二〇　再び独立混成第六二旅団独立歩兵第一大隊として第一三軍直轄部隊に編入せら
れ上海周辺地区に於ける、築城を担任し、上海西郊周家橋附近に移動す。

四、三　新に第一六一師団編成せらるるに及び大隊は独立歩兵第四七五大隊を編成し歩兵
第一〇一旅団に編入せられこゝに第一六一師団長の隷下に入り依然上海周辺地
区に於ける築城に任ず。

当時に於ける二一なる編成左の如し

大隊長　陸軍少佐　戸川春治

本部、第一、第二、第三、第四中隊、機関銃中隊、歩兵砲中隊、
通信隊。

人員、大隊長以下一三五八名　馬匹　一〇五頭

八、上　全般の戦局漸く逼迫し遂に蘇聯宣戦布告し「満ソ」国境方面の戦況急迫を告ぐ
るや師団は全力を以て急遽北方転進を命ぜらる。

大隊は

八、四　第一梯団として上海出発京漢線により北上を開始し。

〃　天　早朝南京駅に達す

同時停戦の大命を拝し軍命令に依り恨を呑んで同地に下車す。

当時既に南京周辺地区は騒然たるものあり重慶軍、新四軍、相錯綜し終戦を
機とし我が警備区域内に進入し来たり連々策動する所あり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	特に南京対岸浦口、及浦鎮には重慶軍及新四軍進入し来たり同地に於ける我が警備隊は包囲せられ在留邦人の生命財産は危殆に瀕するの状態に在り茲に、於て大隊は軍命令に基き一時南京防衛司令官の指揮下に入らしめられ速かに浦口、浦鎮地区に急進し同地に於ける友軍及在留邦人の急援救出及同地の確保を命ぜらる。 大隊は下車中の兵力を逐次該地に急進せしめ主力を以て浦鎮に急進す。 該地は既に重慶軍第七軍副長李本一の指揮する第一七一師及華北逃進縦隊の兵力約三万余進入しありて我が友軍部隊は孤立為す所なり正に我装解隊を孤塁せられつつあり。 大隊は上司の企図に基き武力を行使することなく重慶軍第七軍副長と折衝し平穏裡に我が要求する地点に兵力を撤退せしめ爾後に於ける軍の交渉を容易ならしめると共に友軍部隊を救出す。
八、二七	大隊は該地の確保を後任部隊に移譲し同日南京に帰営原所属に復し爾後南京獅子山兵舎に入り後命を待って待機す。
八、三〇	大隊は師団命令に基き南京郊外（東方約十里）龍潭地区に移動し東陽鎮附近に集中営を設置し復員準備をなす。
昭二一、二、二	復員内地帰還の為龍華出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

〃 二十二　上海着乗船の為待機す

二、一六　内地帰還の為飯田桟橋に於て米軍「リバティー」型レの一三号・ダビット・ストン号に乗船

〃 二七　博多港に上陸

〃　復員を完了す

一、上陸後復員を完了したる人員

大隊長　陸軍少佐　戸川春治　以下一〇〇八名

二、復員したる部隊名

第一六一師団独立歩兵第四七五大隊

三、復員時に於ける入院せる現患者数

（現地に於て残置せる）　七〇名

四、編成以来死亡せるもの　一四名

五、編成以来逃亡せるもの　五名

六、編成以来他隊に転出せる人員一五九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四七六大隊略歷

陸軍大尉　植田太郎

年月日	概要
昭三〇、一二、五	中部第二二部隊に於て動員下令 編成完結と共に波香独立歩兵第五大隊の假称の許に大隊長陸軍大尉植田太郎之を指揮し香港防衛司令部の隷下部隊要員として
一、五	大阪出発朝鮮及津浦線経由
一、六	上海到着同地到着と共に香港に派遣せらるゝの内命に接し着々之が乘船準備中
	全般の戦局は遂に悪化し部隊の南方派遣の為船舶輸送頗る困難を極め大隊は
	依然上海に待機しあり
三、八	第一三軍の指揮に入る
四、一三	軍陸甲第六五号臨時編成下令
四、二〇	新に第一六一師団編成せらるゝに及大隊は独立歩兵第四七六大隊を編成し、歩兵第一〇一旅団に編入せられこゝに第一六一師団長の隷下に入り依然上海周辺地区に於ける警備に任ず。
九、三	大隊は師団命令に基き南京郊外河容県下出地区に移動し、同地に集中営を設け復員準備をなす

2406

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二一、二、三、　復員内地帰還のため下田出発
〃　四　上海着乗船のため待機す。
三、五　内地帰還のため飯田桟橋に於て米軍「リバティイ」型V0二一号に乗船
〃　九　博多港に上陸
〃　復員を完了す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団独立歩兵第四百七十七大隊略歴

陸軍大尉　吉村光夫

年月日	摘要
昭、二〇、四、一三	軍令陸甲第六十五号に依り 第百六十一師団独立歩兵第四百七十七大隊 臨時編成下令
二〇、四、三〇	編成完結 （編成地　上海） 同日陸軍大尉　仲田常行 初代大隊に補せらる 大隊本部　一 中隊　四 機関銃中隊　一 歩兵砲中隊　一 通信隊　一 兵力総員　一、〇九九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三〇、四、三〇	上海に於て同地周辺警備
五 八、一四	並陣地構築に従事す
七、一三	陸軍大尉　仲田勝行
	歩兵第百一旅団司令部附に補せられ
	同日
	陸軍大尉　吉村光夫
	第二代大隊長に補せらる
八、一五	転進のため上海出発
八、一六	南京到着
八、一八	軍令陸甲第百十六号により
	復員下令
自 八、一七	第一独立警備隊長の指揮下にありて
至 九、一三	江浦呉浦鎮警備に任ず
九、一三	浦鎮警備の任を
	第三十四師団歩兵第二百十七連隊第一大隊長に移譲し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、九、一三	同日南京に集結
九、一九	南京駐留
九、二〇	江寧県麒麟山に移駐
九、二〇	右同地駐留
昭二一、二、一三	
二、一四	内地帰還のため
	麒麟山出発
二、一五	上海到着
二、二四	上海に於て
	第十六兵站司令部要員として
	陸軍大尉 岸上義夫 以下一三六名
	第六十一師団司令部に編成
三、四	上海港出帆
三、七	博多港上陸
三、七	三月七日に於ける
	部隊人員の概要左の如し
	総員 一、三五〇名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	除隊日兵解除　九九一名 （内地　九六四名　現地　二七名） 生死不明　一三名 （本土兵帰還員　九名　逃亡　四名） 戦傷　一六六名 入院　一二〇名 死亡　六〇名 処刑者死亡者　なし

2411

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団歩兵第百二旅団司令部（渡天第二三一四五部隊）略歴

陸軍少将　石田寿

年月日	概要
	隷下部隊
	独立歩兵第四百七十八大隊
	（渡天　第二三一四六部隊）
	独立歩兵第四百七十九大隊
	（渡天　第二三一四七部隊）
	独立歩兵第四百八十大隊
	（渡天　第二三一四八部隊）
	独立歩兵第四百八十一大隊
	（渡天　第二三一四九部隊）
昭、二〇、四、一三	臨時編成下令
自四、三〇	上海特別市周文書院大学に於て
至八、一四	編成完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	上海附近警備
昭二〇、八、二五	同地附近警備
八、二七	並陣地構築
	上海出発
	南京到着
自 八、二五	南京城内外の警備
至 九、二〇	
八、二八	復員下令
九、二一	南京城外百草山集中所に移駐
一〇、五	江蘇省呉淞西林村集中所に移駐
昭二一、一、三〇	江蘇省江湾集中所に移駐
二、一七	復員船出発
二、二八	上海到着
三、一九	上海出発
三、二二	博多港帰着
三、二二	復員式終了す
	旅団長の指揮する主力（十一名）は、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭、二、四、二　上海に於ける残務整理を完了し
上海港出発
四、五　博多港に帰着
同日復員式を終了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp